



小田地区

防災訓練に420人が参加

東海地震をはじめとする三連動地震が叫ばれるなか、被害想定の見直しが行なわれ、32万人が被災するというショッキングな発表がありました。この地震が30年以内に起こる確率は88%と非常に高く、明日にでも起こる状況にあります。

瑞浪市においても震度6弱と予想されており、3分以上の揺れ時間を考え合わせると、被害は今までの想定を大きく上回るものと考えられます。

今回の避難訓練は、耐震補強や家具転倒防止など自助の部分強化し災害を少しでも減らすこと、住民がお互い助け合える地域作りを目指す共助を強めることを目的に実施しました。

澄み切った晴天の秋空に、避難を促す防災無線が響き渡った。8時30分、小田地区の対象976戸から420人余の避難者が一次避難所を経て訓練会場の瑞浪中央公園を目指しました。到着した地区住民が併合し、約70名を一グループとして訓練を順次開始した。約20分後にはすべての区民が4グループに分かれそれぞれの訓練場所での訓練を行いました。

30分間の訓練後は、次の訓練場所へ移動して初期消火と煙体験、応急手当、地震体験と簡易トイレ、消防団訓練体験の4つのエリアすべての訓練を行いました。



訓練後は炊き出し訓練で支給されたハイゼックス米と豚汁を食し歓談の時間を過ごした。今回の炊き出しには、瑞浪中学の5人の生徒によるボランティアや日本赤十字からの参加もあり年代を超えた訓練となった。その他、NITの災害伝言ダイヤル、無料耐震診断申し込み、災害ボランティア申し込み、LPガス組合の展示コーナーも盛況でした。瑞浪市消防本部、瑞浪市消防団、交通安全協会など90人余のみなさんからご協力をいただき無事終えることができましたこと心より感謝いたします。

まちづくり推進協議会では、安心・安全の地域づくりや住民の財産を守るために地区を移して防災訓練を続けていきますのでご理解、ご協力をお願い致します。